

N P O 法 人 越 谷 市 郷 土 研 究 会 ・ 歴 史 講 演 会

さ い と う と よ さ く

画家・齋藤豊作

越谷からパリへ

講師 当会常任理事 高崎 力

日時 平成 19 年 1 月 28 日 (日)

午後 1 時 30 分 ~ 3 時

場所 越谷産業会館 (越ヶ谷中町・商工会)

主催 NPO 法人 **越谷市郷土研究会**

後援 越 谷 市 教 育 委 員 会
越 谷 市 文 化 連 盟

画家 斎藤豊作 年譜

1880 (M13) 6月22日斎藤豊作埼玉県南埼玉郡大相模村大字西方197(現・越谷市相模町7丁目)味噌醸造業父斎藤孫兵衛母美弥の次男として生まれる。長兄と姉4人の末子。

大相模小学校時代 } 別表あり
越ヶ谷高等小学校時代 }

1894 (M27) 3月越ヶ谷高等小学校卒業後、伯母(父孫兵衛の2歳違いの姉)の養子となり東京市日本橋区亀島町1丁目18番地(現・茅場町2丁目)へ転住。

1895 (M28) 1月尋常中学共立学校(現在の開成学園高校)へ入学。同校で一時期石井柏亭と同級となる。

1897 (M30) 7月12日父孫兵衛死去

1899 (M32) 9月東京開成中学校を転学、東京美術学校西洋科本科に入学し、黒田清輝らに学ぶ。同級生に山下新太郎、青木繁、熊谷守一、和田三造、児島虎次郎らが出た。

1901 (M34) 本科から選科に転じ、橋口五葉、丸野豊らと同級になる。

1902 (M35) 8月 夏の小旅行
第7回白馬会に(風景)出品

1905 (M38) 7月11日東京美術学校洋画科選科を級友10名と卒業する。

1906 (M39) 渡仏。パリのアカデミー・グラン・シュミュールで有島生馬・湯浅一郎・白滝幾之助らと印象主義と点描画法を学ぶ。

1909 (M42) 英国へ小旅行の後、ブルターニュのポントベンにて製作。

1910 (M43) 豊作、児島虎次郎とオランダ旅行

1912 (M45) フランスより帰国し、小石川区小日向台町1丁目44番地に住む。

1912 (T元) 光風会第1回展に〈初冬〉〈残れる光〉〈秋の色〉
〈うみべ〉〈夏の朝〉を出品。
「滞仏雑話」を美術新報に寄稿。
山下新太郎と元箱根に旅行。
第6回文展に〈秋の色〉を出品。
新美術部第2回洋画小品展(三越呉服店会場)に〈夏
の日〉を出品。

1913 (T2) 日光湯元に写生旅行。「美術新報12-12」に「アン
リ・マルタンのデッサンについて」を寄稿。
有島・山下ら17名は文展洋画部に新旧二科制を置く
建白書を文部省に提出。
第7回文展に〈夕映の流れ〉〈落葉かき〉を出品し褒
賞受賞。※〈夕映の流れ〉は東京国立近代美術館に収
蔵されている。
国民美術協会西部第1回展に〈雪の朝〉〈朝の光〉を出
品。

1914 (T3) 豊作、有島と河口湖畔に写生旅行。
豊作、有島生馬、坂本繁二郎、石井柏亭、山下新太
郎らと二科会を創立、鑑査委員となる。同第1回展
に〈初冬の朝〉〈温泉〉〈海〉〈落葉する野辺〉〈たそがれ
の頃〉〈水辺の初夏〉〈小川の辺〉〈夏〉〈夕ぐれの色〉の
9点を出品。

※ 11月18日有島の紹介で豊作は来日していたフランス
の女流画家カミーユ・サランソンと結婚した。
カミーユは日本国籍をとる程の日本蟲風であった。

※ 与謝野鉄幹(1873~1935)の1914年に刊行され
た〔巴里より〕に記されている若きカミーユについ
ての一節。

此前二月程日本に滞在して居る中母堂の訃に接し
て巴里へ帰ったシャランソン嬢(カミーユ・サラ
ンソンのこと)が再び予と前後して東京へ行く筈
だ。シベリヤを経るのだから予よりも先に着くで
あろう。嬢は富豪の女で珍しい日本蟲風の婦人だ。
殊に日本文学を愛して、日本語を巧に語り、日本
語をも立派に書く。源氏物語を湖月抄と首引で読
んで其質問で予の友人を困らせた程の熱心家だ。
嬢は日本の文人と交わることを望んで居る。日本
の文人が嬢をして失望せしめないならば、彼女は
永久桜咲く国に留まりたいと云う希望をさえ有っ
て居るのである。(1912年12月10日)

なお、カミーユの父は1886年サンレミシュル・オルヌの大鉱山の1/3を買収した程の財産家であったから、かつてカミーユを育て、生涯カミーユに尽くすことになるドイツ人女性のマチルド・パーデルが東京まで付添い、そして1915年8月3日斎藤夫妻の間に息子タモツが誕生するとパーデルが養育を請負うことになり赤坂区新坂町8番地に同居する。

- 1915 (T4) 二科会第2回展に豊作は〈春の夕〉〈初夏の雨〉〈初冬の雨〉〈夏の夕〉〈水蓮〉〈農家の裏庭〉〈雨後の海〉の7点を出品。会場・三越旧館。
- 1916 (T5) 18年まで病気がちで不出品。
- 1917 (T6) 山下、梅原と熱海に長期逗留。
- 1919 (T8) 二科会第6回展〈於上野竹芝台〉に〈残雪〉〈雨後の夕〉〈雪後の夕〉〈朝〉を出品。

※これが日本における斎藤豊作最後の出品となる。

- 1920頃 渡仏に際し斎藤夫妻は、大量に集めた日本の版画は画家山下新太郎に預け、中国旅行で集めた中国美術品は与野（現・さいたま市）の井原家に預けた。
- 1920 (T9) 6月24日斎藤夫妻ら一行は横浜フランス領事発行のパスポートを持ち、アメリカ大陸を横断し8月3日ニューヨーク・フランス領事査証パスポートを持ち8月16日にフランスに入国した。両大洋とアメリカ大陸横断の旅でした。フランスではヌイー・シュル・セーヌのマルシェ通り63番地の一軒屋の新居に落ちつく。
- 1920～21 斎藤は友人の児島虎次郎が大原孫三郎が当時作りつつあった西洋美術のコレクションのために、仏人画家アマン・ジャンの協力を得て、マチス・スコンザック・ラファエル等の作品20点を日本へ送った。後に倉敷市にある“大原美術館”となる。
- 1924 (T13) 12月24日次男光が誕生したが翌1月27日僅か1ヵ月程で死亡。
- 1925 (T14) 斎藤は〈花の習作〉2点をサロン・デ・チュイルーに出品。

1945 (S20) 豊作は息子夫妻が去った後のパリ・フロドヴォー通り59番地にいた時逮捕され、フレヌに拘禁された。一度は釈放されたが次はヴェヌヴェルで逮捕され、今度はドランシィに多くの日本人とともに拘禁された。

※ 後に豊作夫妻所有のヴェヌヴェルの城を買い取った有名なフランス人のオルガン奏者であり音楽学者のノルベール・デュフルクは、この城の歴史を描いた著書の中で

第二次大戦の時、日本がドイツの同盟国であったために多くの日本人が逮捕された。監獄の塀の向うで豊作は結核に罹り、ヴェヌヴェルに帰ってきたものの亡くなってしまった。彼の妻と娘は、いくつもある人気のない部屋のあるこの城に2人だけで留まることはできなかった。こうして城を売り払うことになった。

1950 (S25) 齋藤豊作は父孫兵衛の遺した水田3町歩余を北葛飾郡吉川町近郊の二合半領（現・三郷市）に保有しており、この小作料は吉川町字田久の者が管理していたが、後に大相模村見田方（現・大成町）の植竹佑三が差配し、2、3年分まとめてフランスへ送金していた。この田は戦後の農地改革の際、不在地主であったため全部政府に買収されて小作人等に配分され、相当する金額は与野在住のタモツ齋藤が受領した。また、かつて豊作夫妻が渡仏するに際して、収集していた日本画と中国美術品は与野の井原家に預けてあったが、タモツ夫妻の生活苦から画家の山下氏らに償却を依頼し、当時としては大金の25,000円を手にした。これらの処分についてはフランスの病床にいる豊作の承諾を得ることができた。

1951年 10月7日、齋藤豊作、フランス・ヴェネヴェルで亡くなる。

その後のカミューについて

- 1955 72歳のカミューは“ソドルヴェルの城”と呼ばれる土地付大邸宅を購入。
- 高台に建つ3階建ての母屋と左右の翼棟。
古い樹木の並木道と正面広場。家畜小屋。
池のある菜園と果樹園と庭園。林とブドウ園。
敷地19ヘクタール。
日本人画家の村山宏、岩田栄ら訪問滞在している。
- 1963 経済状態の悪化、徐々に視力を失ないつつあったカミューは城を手離す。その際18、19世紀の家具類を競賣した。
- 1969 2月28日、カミュー斉藤パリで亡くなる。86才。
- “日本女性よりも日本女性らしいフランス女性”といわれている。

越谷出身(1880~1951)画家斎藤豊作の生涯

引用資料

- 埼玉県近代美術館研究叢書1
斎藤豊作とその家庭を巡る人々について
- 埼玉県立近代美術館
斎藤豊作と日本の点描
- 美術連絡協議会
巴里憧憬エコール・ド・パリと日本の画家達
- 埼玉県立近代美術館
倉田白洋展
- 埼玉会館郷土資料室
倉田白洋と弟次郎
- 四方宜画廊 埼玉の洋画人 松島光秋
- 越谷市史
- 大相模小学校120周年記念誌
- 越谷小学校120周年記念誌

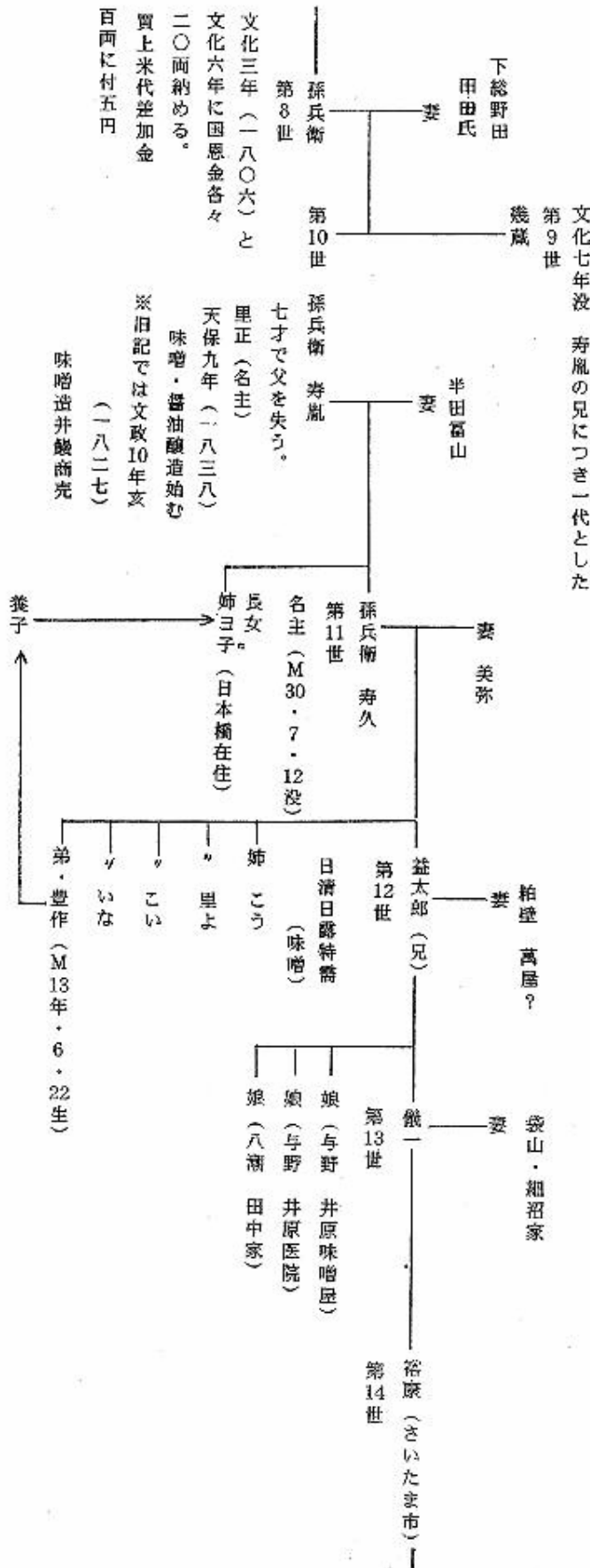
資料提供者

埼玉県立近代美術館 金子百合子

調査協力者

越谷市相模町 大聖寺
" 沢田包次
" 秋谷奎一
越谷市郷土研究会 宇田川正治
" 池田仁
" 加藤幸一

斎藤孫兵衛家系図 (斎藤家墓地調査)



斎藤豊作の墓地。

フランス・ヴェネヴェル古城近くの村の墓地

黒の大理石の石碑「斎藤豊作ここに眠る」仏語
並んで夫人のカミューの墓

越谷・大相模・斎藤家

第13代 儀一氏の破産……詐欺事件被害

三十二町歩、人手に渡る。

味噌蔵六棟、本宅失う。

東側にあつた土蔵・米倉・離れ・唐風四脚門
は人手に渡り借主転々とした。鳳八千代等。

現時点、分譲住宅地等

◎昭和48年3月 庭にあつた樟の大木は、樹勢、品種の良さから
皇居庭園に移植された。

△椎木のみ現存している。……元荒川土手下、保存は？

画家・斎藤豊作の誕生

付・倉田弟次郎

年号	越ヶ谷高等小学校等	倉田弟次郎	斎藤豊作	大相模小学校等
明治6年	5月 越ヶ谷学校設立(私立) 副戸長小泉幸次郎所有地 (現在の越ヶ谷2丁目9番)			4月15日 進文学校・西方村安養 院内に設立 9月5日 培根学校・東方村観音 寺内に設立
7年				3月15日 千疋学校・千疋村東養 寺内に設立
8年	越ヶ谷学校公立となる			
9年	1月 瓦曾根村と連合した越ヶ谷 学校となる			
13年			斎藤豊作 明治13年6月22日 西方村197番に生まれる	
14年	7月 瓦曾根村と分離し、新たに 花田村と連合した越ヶ谷学 校となる			
17年	3月 越ヶ谷学校校舎増築			
18年	10月 学区改正により花田村と分 離する			
19年	4月 小学校令により 尋常小学校4カ年(就学義 務)と高等小学校4カ年の 設置区域を定める 越ヶ谷地域は南埼玉郡下五 地区のうち第二区となり「南 埼玉郡第二高等小学校が設 置されることとなった 4月29日 越ヶ谷学校は校名を 「尋常小学越ヶ谷学校」後 に「越ヶ谷尋常小学校」と なる 5月 越ヶ谷学校内に「越ヶ谷・ 大沢・出羽・蒲生・川柳・ 大相模・増林・新方・桜井		4月 斎藤豊作は東方学校に入学	4月 進文・培根・千疋の各 学校を廃し「東方学校」 を設置

明 治	越ヶ谷高等小学校 等	倉 田 第 次 郎	斎 藤 豊 作	大 相 模 小 学 校 等
前ページに 続く	大袋・荻島の11ヵ町村組 合立「南埼玉郡第二高等小 学校」を設立するとなっ た			
20年	4月5日 越ヶ谷町外10ヵ町村組 合立「越ヶ谷高等小学校」 が越ヶ谷尋常小学校教室を 仮用として開校 学区 越ヶ谷町外10ヵ町村 職員 訓導2名 補助員1名 (校長は訓導榎本英蔵兼務) 生徒 男子52名 女子2名		4月 斎藤豊作東方学校2学年進 級	3月 東方学校第1回卒業生8名
21年	4月 市制町村施行により町村合 併が行われる 新町村を一学区とする学区 改正行われる 越ヶ谷高等小学校は 生徒 男子105名 女子8名 職員 補助員1名増員して 訓導2名 補助員2名		4月 斎藤豊作東方学校3学年進 級	3月 東方学校第2回卒業生5名
22年	4月1日 越ヶ谷町と大沢町で一組 合町となる 5月29日 上記組合立「共和学校 (尋常科)」を設立。但し越 ヶ谷町に第一教室、大沢町 に第二教室を置く 8月 「越ヶ谷高等小学校」は明 治20年当初指定の「南埼 玉郡第二高等小学校」と改 称 生徒 男子107名 女子10名 職員 訓導 榎本英蔵 " 池田小平治 備員 伊藤勝美 " 川島信吉 裁縫雇 田中その		4月 斎藤豊作は大相模尋常小学 校4年生となる	3月 東方学校第3回卒業生17名 4月 東方学校は校名を「大相模 尋常小学校」と改称

明治	越ヶ谷高等小学校等	倉田 弟次郎	斎藤 豊作	大相模小学校等
23年	<p>3月 南埼玉郡第二高等小学校の第1回卒業生は10名</p> <p>4月 斎藤豊作は南埼玉郡第二高等小学校1年に入学す</p> <p>南埼玉郡第二高等小学校は一教室(30坪)増築す</p> <p>職員 校長1名、訓導1名、補助員3名</p>	<p>23.1.19 弟次郎は写真(少年)を増林村榎本家(榎本英蔵宅の離れ屋)にて撮写</p> <p>補助員のうち1名が倉田弟次郎と推測される</p>	<p>3月 斎藤豊作大相模尋常小学校第4学年卒業</p> <p>4月 斎藤豊作は南埼玉郡第二高等小学校(所在地越ヶ谷町新町)に入学1年生</p>	<p>3月 斎藤豊作は大相模尋常小学校第4学年を卒業</p> <p>卒業生15名</p> <p>卒業名簿9番目に斎藤豊作の氏名記載あり</p>
24年	<p>3月 南埼玉郡第二高等小学校の第2回卒業生は8名</p> <p>4月 上記校職員 校長1名、訓導1名、補助員3名 上記校生徒 男子143名、女子19名</p>	<p>24.1.19 「小野ツル」など人物素描</p> <p>24.6.24 「越谷久伊豆神社」写生</p> <p>24. 「大相模大聖寺黒門」写生</p> <p>補助員のうち1名は倉田弟次郎</p>	<p>4月 斎藤豊作第二高等小学校2年生</p>	
25年	<p>3月 南埼玉郡第二高等小学校の第3回卒業生 男子20名、女子2名</p> <p>4月 上記校の職員 訓導3名、補助員2名 上記校の生徒 男子157名、女子18名</p> <p>9月 明治25年改正小学校令施行により明治23年の町村組合会は解散し 9月同規模の越ヶ谷ほか十カ町村高等小学校組合を設立して一切を引継ぎ 校名を「南埼玉郡越ヶ谷高等小学校」とする</p> <p>10月 同上の「南埼玉郡越ヶ谷高等小学校」発足する</p>	<p>25.6.7 「瓦曾根農家の土間」写生</p> <p>25.7.23 「八幡村」写生</p> <p>25.10.3 「粕壁古利根川」写生</p> <p>25.10.16 「荒川」写生</p> <p>25.10.17 「板橋・前野村」写生</p> <p>25.11.3 「三河島」写生</p> <p>25.11.13 「中野」写生</p> <p>25.11.18 「深川、大島村」写生</p> <p>25年中の作品 「神社境内」写生</p>	<p>4月 斎藤豊作第二高等小学校3年生</p> <p>10月1日 校名変更 南埼玉郡越ヶ谷高等小学校3年生となる</p>	

明 治	越ヶ谷高等小学校 等	倉 田 弟 次 郎	斎 藤 豊 作	大 相 模 小 学 校 等																								
前ページに 続く		<p>25年中の作品続き</p> <p>「宿場」写生 「麦畑と農家」写生 「根岸田園」写生 「農家の庭先」写生</p> <p>この間、倉田弟次郎の居所には 越ヶ谷町216番地 越ヶ谷町365番地 などとなっており、それまでの増 林村榎本家を退去したものと見え よう。 浅井忠の門下生になった時期不明 である</p>																										
26年	<p>4月 南埼玉郡越ヶ谷高等小学校 生徒 男子202名、女子28名 職員 訓導3名、準訓導1名 裁縫嘱託師1名</p> <p>12月 上記校 生徒 男子193名、女子29名</p>	<p>26年中 「南埼玉郡出羽村神明下」 写生 「農家土間」写生</p>	<p>4月 斎藤豊作 南埼玉郡越ヶ谷高等小学校 4年生</p>																									
27年	<p>3月 上記校卒業生9名</p> <p>4月 上記校生徒数 男子197名、女子32名 職員 訓導兼校長1名 訓導 2名 裁縫嘱託教師1名</p> <p>6月 生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>74</td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>56</td> <td>12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>34</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>26</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>186</td> <td>38</td> <td>224名</td> </tr> </tbody> </table>		男	女		1年	74	20		2年	56	12		3年	34	4		4年	26	2		計	186	38	224名	<p>明治27年1月16日東京にて 倉田弟次郎 死亡 24歳</p>	<p>3月 斎藤豊作 南埼玉郡越ヶ谷高等小学校 1学年卒業</p>	
	男	女																										
1年	74	20																										
2年	56	12																										
3年	34	4																										
4年	26	2																										
計	186	38	224名																									

明治三十拾年所得下開班

(明治三十拾年所得下開班) 第七次西門井出班

明治三十拾年所得下開班

姓 名	村 名	種 類	金 額	備 考
藤波 伝左衛門	川 柳	賃 金	1,000.00	
新井 保太郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
石井 利助	川 柳	賃 金	1,000.00	
中村 喜太郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
加藤 吉太郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
深井 七郎兵衛	川 柳	賃 金	1,000.00	
豊 田 和 吉	川 柳	賃 金	1,000.00	
豊 田 真 治	川 柳	賃 金	1,000.00	
中村 馬之助	川 柳	賃 金	1,000.00	
中村 新右衛門	川 柳	賃 金	1,000.00	
若林 新二右衛門	川 柳	賃 金	1,000.00	
斎藤 孫兵衛	川 柳	賃 金	1,000.00	
秋山 吉重郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
石塚 与喜藏	川 柳	賃 金	1,000.00	
宇田 幾之助	川 柳	賃 金	1,000.00	
中村 重太郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
中村 治太郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
筋 由太郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
飯島 佐平次	川 柳	賃 金	1,000.00	
立 沢 柳 助	川 柳	賃 金	1,000.00	
浅見 勝太郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
池ノ谷 丑太郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
浅谷 喜代次郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
関根 右衛門太	川 柳	賃 金	1,000.00	
清村 治十郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
中村 信太郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
神谷 熊之助	川 柳	賃 金	1,000.00	
大熊 安右衛門	川 柳	賃 金	1,000.00	
中野 弥三郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
大熊 喜右衛門	川 柳	賃 金	1,000.00	
高橋 藤 助	川 柳	賃 金	1,000.00	
浅 見 伝 藏	川 柳	賃 金	1,000.00	
浜野 佐次郎	川 柳	賃 金	1,000.00	
藤田 善兵衛	川 柳	賃 金	1,000.00	
中野 宗 庭	川 柳	賃 金	1,000.00	
中野 柳 助	川 柳	賃 金	1,000.00	
神谷 治 平	川 柳	賃 金	1,000.00	
中野 七郎兵衛門	川 柳	賃 金	1,000.00	

川 柳 姓 名

村教員俸三六

收入給与

大相模

村長報酬一〇〇

養蚕元上二〇〇
家賃六三〇

田公債 六六〇株

米上之代金
肥料四、〇〇〇

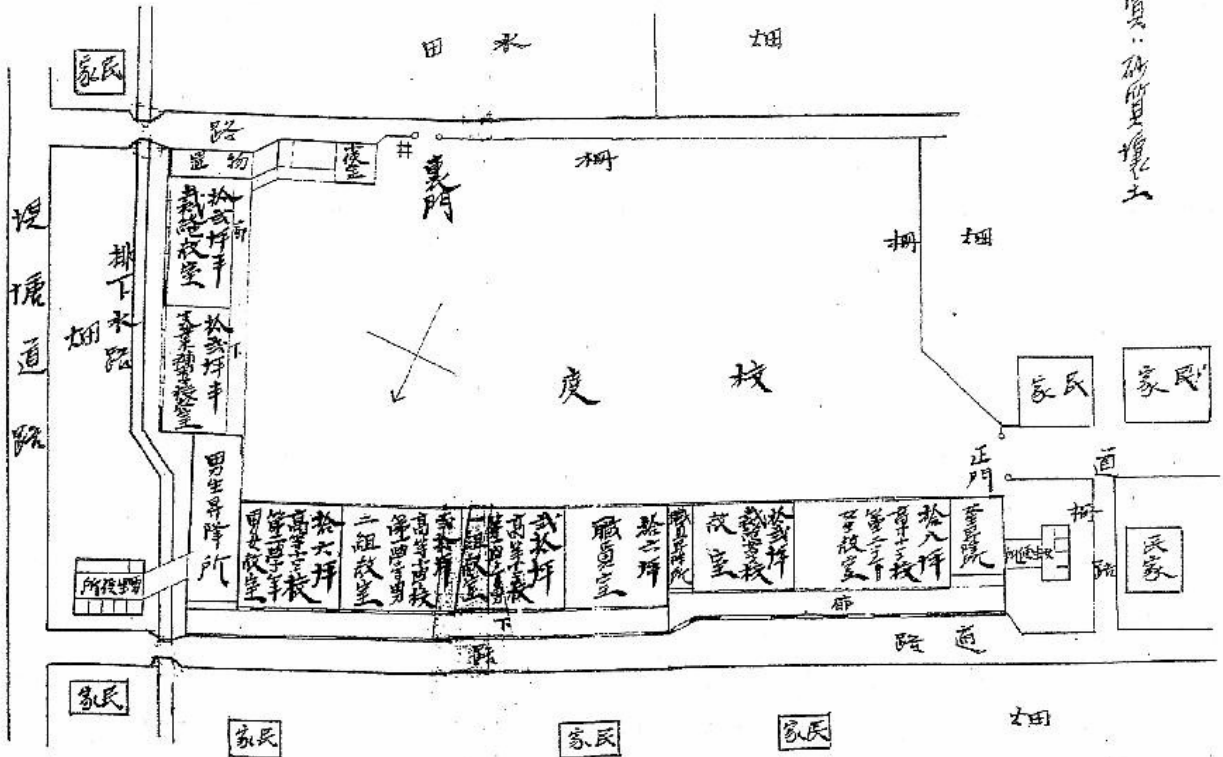
貸家二棟

貸家山一棟

村木澤上町
〇次、北町、北門

養蚕元上二〇〇
家賃六三〇

地質：砂質土



昭和四年三月五日
 本庁舎竣工す
 河 流 (馬曾根沼井)

石 芳 吉 刑 周 小 宗 鈴 鈴 金 立 港 瀬 中 井 岡 各
源 龍 田 村 上 沢 倉 木 木 子 沢 谷 竹 竹 原 侯 塚
忠 七 常 丑 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰
左 七 常 丑 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰
衛 七 常 丑 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰
門 七 常 丑 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

各 錦 津 谷 岡 明 治 25 年 11 名
塚 本 竹 津 谷 岡
か 市 八 右 工 門 ぶ 助
ね 太 郎 門 ぶ 助

立 小 立 小 字 明 治 27 年 24 名
沢 沢 沢 沢 田
己 重 平 己 之 助
之 吉 助

後 立 高 谷 新 派 岩 立 浅 深 浜 石 石 山 彌 明 治 28 年 26 名
見 沢 娘 塚 井 野 塚 沢 見 井 野 塚 塚 塚 塚 塚
ひ 兵 福 長 七 五 一 助 信 衛 辰 郎
を 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎

橋 麗 後 秋 中 明 治 30 年 37 名
竹 根 見 谷 村
こ 十 松 三 次 郎
め 人 郎

江 秋 富 新 中 林 石 立 鉄 立 植 藤 明 治 31 年 29 名
森 礼 田 藤 初 次 郎
為 一 之 郎

秋 石 明 治 33 年 28 名
山 塚 久 次 郎
卓 次 郎

略 年 譜

倉田弟次郎

年 号	記 事
1870年(明治3年)	父、務(漢学者。幽谷と号す。)母、静子の第二子として東京に生まれる。
1885年(明治18年)	この頃より、洋画を学び始める。
1887年(明治20年)	浦和師範学校高等科卒業後、組合立越谷高等小学校の代用教員として奉職。
1891年(明治24年)	洋画家浅井忠に画才を認められ、上京。東京市下谷区中根岸町81番地の浅井忠宅に起居し、画道に励む。明治美術会会員となり、同会の第3回展に「農家」を出品。
1892年(明治25年)	明治美術会第4回展に水彩画「野寺の景」出品。
1893年(明治26年)	明治美術会第5回展に水彩画「寛永寺」他2点、油彩画「春郊」出品。
1894年(明治27年)	1月16日病のため永眠。享年24歳。

(春陽会倉田白羊先生追悼特集及び越谷歴史物語第二集より抜粋)

倉田白羊

年 号	記 事
1881年(明治14年)	父、務(漢学者。幽谷と号す。)母、静子の第五子として埼玉県浦和に生まれる。本名、重吉 ^{シゲユキ} 。
1894年(明治27年)	兄、弟次郎永眠により、その遺業を継ぐため明治美術会の洋画家浅井忠に師事。
1898年(明治31年)	明治美術会準会員となり、「市街」「渡頭」「景色」出品。東京美術学校洋画科専科入学。
1901年(明治34年)	東京美術学校洋画科専科卒業。群馬県沼田中学校に奉職。
1902年(明治35年)	太平洋画会創立と同時に会員となる。同会第1回展に「牧場」「駅路浅雪」他4点出品。以後第3回展、第6回展、第7回展、第10回展に出品。
1904年(明治37年)	群馬県沼田中学校辞職。上京して時事新報社入社。(明治42年退社)

年 号	記 事
1907年(明治40年)	第1回文部省美術展(文展)に「つゆばれ」出品。以後第2回展、第4回展、第6回展に出品。石井柏亭、山本鼎、森田恒友創刊の美術雑誌「方寸」に参加。以後素描、水彩、木版画、エッセイなど同誌に発表。
1914年(大正3年)	小笠原島に移住。9月著作「洋画の手ほどき」刊行。押川春浪が主筆の「武俠世界社」に関係。
1915年(大正4年)	小笠原島より帰京。日比谷美術館にて小笠原島滞留作品40点による個展開催。10月日本美術院同人となり、同展に「葡萄を採る男」出品。以後第3回展から第7回展まで連続出品。
1920年(大正9年)	日本美術院の瀬戸内海巡遊に参加。同展第7回展に大作「冬」を出品。同展終了後、洋画部同人5人とともに院展洋画部を脱退。
1922年(大正11年)	院展洋画部脱退の旧同人及び梅原龍三郎、岸田劉生等とともに春陽会創立。山本鼎の創立による日本農民美術研究所の事業を援助するため、長野県上田市に移転。
1923年(大正12年)	第1回春陽会展に「冬の林檎畑」他11点を出品。以後第6回展を除き、第15回展まで出品。
1926年(大正15年)	長野市の信濃毎日新聞社講堂において、個展開催。油絵、水彩等56点出陳。
1927年(昭和2年)	上田市東北の神科村の山居に移る。
1929年(昭和4年)	銀座資生堂画廊において、山村風景作品展開催。油彩、水彩等33点出陳。
1931年(昭和6年)	銀座石原求龍堂主催による個展開催。油彩、水彩等33点出陳。
1934年(昭和9年)	銀座資生堂で個展開催。油彩30点出陳。随筆集「雑草園」を刊行。
1935年(昭和10年)	春陽会に大作「たき火」等7点を出品。「半人三字文」を刊行。
1937年(昭和12年)	美術教育講演集「美育断片」を発行。大阪美交社における個展開催。第15回春陽会展に大作「冬野」「朝鮮牛」他出品。大阪美術新論社画廊における個展開催。病氣悪化し就床。
1938年(昭和13年)	失明。11月29日永眠。享年57歳。

明治二十九年 南埼玉郡大地主氏名調

〔埼玉公論第六号〕東京大学明治文庫蔵

埼玉県各郡大地主

本県下各郡の大地主則ち地租二百五十円以上を納むるものは総計二百九十七人にして其住所氏名は左の如し

南埼玉郡 六十二人

菅蒲町	平沢倉吉	出羽村	野口源次郎	三箇村	小林啓之助	大相模村	斉藤孫兵衛
粕壁町	田村新蔵	同	井出庸造	河合村	関根峯三郎	同	神谷熊之助
同	澁水勝右衛門	同	中村賢之輔	増林村	関根宗輪	同	飯島佐平治
同	慶間市兵衛	同	大野伊右衛門	同	瀧田文右衛門	越ヶ谷町	松本利兵衛
同	山口万蔵	同	荒井吉右衛門	同	榎本英蔵	同	山崎長右衛門
同	永田勘六	同	高橋慶助	同	今井喜一郎	同	遠藤小兵衛
江面村	武井友之助	川柳村	藤波伝左衛門	同	鈴木小一郎	同	仁科仁兵衛
同	宮内翁助	大袋村	細沼貞之助	八幡村	豊田佐五右衛門	同	小泉市右衛門
新和村	臣口要吉	篠津村	新井啓一郎	同	同松三郎	須賀村	日下部泰助
岩槻町	斉藤善八	同	折原毅一	同	会田善治	同	小島貞蔵
八条村	太田瀧右衛門	清久村	瀬田弥藤治	同	藤波俊太郎	久喜町	榎本善兵衛
同	会田惣次郎	百間村	市川佐五右衛門	同	小沢永之助	太田村	大越兵右衛門
				日勝村	斉藤徳三郎	同	折原武輔
				百間村	小島徳太郎	潮止村	田中三郎左衛門
				武里村	森泉胤之助	同	佐藤乾信
				同	中村西吉	蒲生村	関根右衛門太
				同	原又右衛門	同	中村信太郎
				鷺宮村	高橋荘之丞	同	清村清十郎

●やいとう、れんご 齊藤 廉吾

君は宮城縣の大地主なり(地七七八圓餘、陸前國松生郡小野村)

●やいとう、ひらやまらら 齊藤惣二郎

君は福島縣の人にして吳服太物織紙茶綿和洋糸商を業とし米澤庵と稱す(營九四圓餘、所三五圓餘、岩代國北宮津郡若松町上一ノ町)

●やいとう、つねきち 齊藤 恒三

君は三重縣の人三重紡績株式會社の常務取締役四日市製紙株式會社の監査役にして四日市商業會議所の特別會員たり(伊勢國四日市北條町)

●やいとう、ふぶる 齊藤九兵衛

君は山形縣の人にして清酒醸造を業とし莊内羽二重株式會社の取締役及株式會社鶴岡銀行の監査役たり(所三五圓餘、營三九圓餘、羽前國西田川郡鶴岡鎮治町)

●やいとう、ふらきち 齊藤 庫吉

君は新潟縣の人にして廻船問屋を業とし越佐濱船株式會社社長、株式會社新潟商業銀行、株式會社新潟貯蓄銀行専務取締役、新潟硫酸株式會社及新潟曳船株式會社取締役、新潟船務株式會社、新潟運送株式會社、株式會社新潟銀行監査役兼株式會社新潟株式會社理事等の職にあり(所三三圓餘、新潟市東堀通七番町)

●やいとう、やほきち 齊藤八百吉

君は栃木縣の大地主なり(地四五四圓餘、下野國芳賀郡南高根澤村)

●やいとう、やまら 齊藤 彌久

君は石川縣の人にして加賀國河北郡高根村の豪農齊藤彌五郎氏の長子なり年甫て十八上京して佐野崎の塾に入りて普通學を修め更に沼岡守一に就きて法律學を研究し後改進黨に加はり政界に奔走し既して卿に歸り縣會議員河北郡參事會員等となり是より自ら進みて實業界に投じ米穀肥料の改良を企て其販賣擴張に力む明治二十六年金城貯蓄銀行を起し二十八年明治商業銀行を同立して其重役たり又石川五二運搬會社を設立して其重任となる三十年東京支店を設置して米穀輸出の業を營み又三府及び神戸地方に糖米を輸出す其年に四五萬石を下りす近來東京市場に加賀米の名類るゝに至れり(加賀國金澤市高岡町)

●やいとう、やひろふる 齊藤彌惣兵衛

君は新潟縣北蒲原中蒲原兩郡に跨がる大地主にして多額納稅者なり(直二、八五六圓餘、越後國北蒲原郡安田村)

●やいとう、やすを 齊藤 安雄

君は埼玉縣の大地主にして株式會社深谷銀行の専務取締役、同大宮商業銀行の取締役たり(地五一圓餘、武藏國大里郡中瀬村)

●やいとう、やすけ 齊藤 彌助

君は山形縣の人にして醤油醸造録味増製造を營

業とし株式會社長井銀行の監査役たり(所三四圓餘、營三五圓餘、羽前國西置賜郡長井町小出)

●やいとう、まごべる 齊藤孫兵衛

君は埼玉縣の大地主なり(地六八〇圓餘、武藏國埼玉郡大相模村)

●やいとう、まさたらう 齊藤政太郎

君は新潟縣の大地主なり(地九五九圓餘、越後國北蒲原郡安田村)

●やいとう、まさきち 齊藤 政吉

君は東京の美術工藝品商にして萬屋と稱す(京橋區銀座二ノ一二、電新一四九三)

●やいとう、まさしち 齊藤 政七

君は岐阜縣の人にして株式會社多治見銀行頭取たり(美濃國土岐郡多治見町)

●やいとう、まんごう 齊藤 萬藏

君は秋田縣大地主なり(地八〇八圓餘、羽後國平鹿郡横手町)

●やいとう、けいじ 齊藤 珪次

君は埼玉縣の人萬延元年三月廿五日武藏國北埼玉郡三田ヶ谷村大字喜右衛門新田に生る亡喜右衛門氏の長子なり其先は源旭將軍より出つ子孫農に歸し喜左衛門新田を開き世々郷長となり後ち四十八ヶ村の羽生領人民惣代として關東取締の優待を得亡父喜右衛門氏亦其後を籠き維新まで土地の政

70524

明治人名辭典 下巻

一八八七年刊

上巻標價五百三三〇〇〇

日本及外人姓名辭典 第五

東京「日本現今人名辞典」(一九三三年)

高野 義夫

日本圖書センター

東京千代田区外神田一丁目三番

TEL. 03-3281-1111

TEL. 03-3281-1110

ISBN 4-205-2001-3 C310(T)
ISBN 4-205-2001-6 C310(T)